

学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成28年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立岩槻高等学校	Bグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	普通科・国際文化科が併設されている特性を踏まえ、目指す学校像が設定されている。学校の現状や課題等を踏まえて概ね適切に設定されているが、次のステージに向けて学校グランドデザインに掲げた「岩高前進」を具現化するために、生徒の変容等を踏まえながら更に明快かつ具体的な学校像を模索していただきたい。
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	目指す学校像を踏まえた重点目標が設定され、取り組むべき課題が具体的に示されている。グローバル化の進展などの社会変化や学校の置かれた状況を把握した上で、中期的視点から、更に検討・整理して目標の重点化を進めることが望まれる。
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	評価運営委員会と分掌・学年が連携し、学校自己評価システムが運営されている。国際交流部の増員など組織体制の整備や分掌・学年からのボトムアップを通じて本システムが組織的に運営されている。学校関係者の意見を有効に活用し、課題に速やかに対応するなど、組織が適切に機能している。
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	朝学習の効果を高めるための課題考査や普通科を含めた国際理解教育の推進など、組織的・計画的な取組が増えてきている。全体的には方策が前年踏襲型となっているので、選択と集中を図るとともに、取組指標と成果指標をうまく組み合わせることで改善の成果が見えやすい指標にすることが望まれる。
	校長的的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	校長が学校の現状を踏まえ、国際文化科の発展や学校全体に広げた国際理解教育の推進など、明確な学校経営の方針を持ち、職員会議等において教職員の共通理解を図っている。校長的的確なリーダーシップの下、10年先を見据えたキャリア教育の展開などについて更に教職員の共通理解を深め、課題の解決に向け、学校全体として組織的に取り組むことが期待される。
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	アンケートや学校関係者評価などを基に、取組を検証し、前年度の課題を次年度の目標・方策の設定に生かしている。アンケート結果等を生徒・保護者へフィードバックするとともに、詳細に分析して新たな課題の析出や方策の見直しを検討するなど、次年度のより具体的な取組につなげ、更にPDCAのスパイラルアップを図るようにしていただきたい。
特記事項		